



令和6年度「子どもの心に寄り添うカウンセリング研究会」 第31期研究員募集のご案内



保育・幼児教育、学校教育に携わるみなさんへ

相手を尊重する姿勢で人と関わるために

「子どもの心に寄り添うカウンセリング研究会」は、令和6年度で31年目を迎えます。

研究アドバイザー（臨床心理士等）の講義とロールプレイ等の演習、グループ協議を通して、保育士・教諭のみなさんが互いの実践現場での様々な課題について話し合います。グループは年間を通して同じメンバーですので、仲間づくりにもつながったという声もいただきます。

毎回の研究会の感想や各園・学校での取組について往還的に対話を重ねることで、「傾聴・共感・寄り添い」といった「援助的コミュニケーション」の力を磨き、日常の保育・教育に生きる研究会です。

参考 令和5年度第30期生研究員の感想より（幼保小担当で意見をまとめています）

- ①真剣に向き合うこと ②傾聴すること
- ③相手の気持ちを受容すること ④寄り添うこと
- ⑤専門家であること…この学びの中で「見立てること」は毎回の研修の中で何度も大切だと思いました。

非言語的コミュニケーションと言語コミュニケーションについての学びは、実際翌日からも生かすよう努めました。

「事柄に対していつも2軸の考えがある」という話からも、相手の言葉には表れていないもう一方の考えを想像することの大切さを学びました。

言葉をまだ多くは習得していない1年生は、毎日非言語的コミュニケーションから多くの情報を得ているため、まだまだ幼い児童とのやりとりをしていく上では、少し大げさなくらい、表情や身振りを付けてコミュニケーションをとるようにしました。

質問をするときは、オープンクエスチョン、クローズドクエスチョンを使い分けながら、子どもたちが安心して話せるように心がけるようになりました。

